

## 進捗状況の概要【1ページ】

## 【Ⅰ. 人材の魅力化】

## (1) 海外一線級ユニットの誘致

本学の強み・特色である「デザイン・建築」、「繊維材料・高分子」、「グリーンイノベーション」分野において、研究ユニット誘致を実施し、毎月2回以上の国際連携プロジェクトを実施した。

## (2) 教員海外派遣による教員組織の国際新陳代謝

ケンブリッジ大学、スイス連邦工科大学チューリッヒ校、シンガポール国立大学、ハーバード大学など、平成27年度から毎年10名程度の教員を海外に長期間派遣した。

## (3) 人事・給与システム改革

平成26年度に年俸制を導入した。教員の年俸制適用者の業績に係る評価は、論文数や引用数、受賞数等客観的な指標に基づいて行われる。述べ55名に年俸制を適用し、外国人研究者や若手研究者の年俸制雇用による組織の活性化、能力・成果主義を可能とした。

## (4) 職員の高度化への取組み

大学の国際化に寄与する人材を育成するため、平成27～28年度にかけて、職員を海外の教育研究機関等へ長期1名、短期11名派遣した。また、英語研修の実施とともに、勤務成績評価時にTOEICのスコアを加味し、TOEIC730点以上取得者割合が5.5%から13.4%へ2倍以上向上した。

## 【Ⅱ. 場の魅力化】

## (1) 交流スペースの設置

地域産業界との共同研究や地元自治体との交流等地域貢献を目的としたCOCプラザ棟を新設し、その中に海外研究者や地元企業との交流スペース「TECH SALON」を設置し、シンポジウム等交流活動を行った。また、附属図書館内にグローバルcommonsを設置し、留学生と日本人学生の共同学習や他国の文化に触れるイベントで利用した。混住型学生宿舎の松ヶ崎学生館では学生間交流に加え、近隣住民との交流を実施している。

## (2) 海外拠点の設置

海外インターンシップ事業の拠点となるオフィスをタイ王国に3ヶ所設置した。この拠点を利用し、ASEAN諸国における教育研究活動を展開している。

## 【Ⅲ. カリキュラムの魅力化】

## (1) 3×3構造改革、クォーター制によるカリキュラム・学年暦の魅力化

学士課程から博士前期課程までの6年一貫教育の実質化を図る3×3構造改革を実施した。この改革による学部4次生の大学院科目の先行履修やクォーター制を取り入れた学年暦・学事暦の柔軟化により、多様な学修計画に対応したギャップタームを生み出し、多数の学生が海外インターンシップへ参加した。

## (2) TECH LEADER 指標に基づく TECH LEADER 養成

平成26年度に本学が育成すべきグローバル化を牽引する人材の要素について調査を行い、TECH LEADER指標を開発した。平成28年度入学生から、この指標に基づいたディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーを制定した。

## (3) 英語鍛え上げプログラムの実施

「聴く」「読む」「話す」「書く」の4技能の向上を目指し、反転授業による毎授業の課題やE-learningを用いた多読・多聴の実施による多量のインプットを行う授業を展開した。また、TOEICスコアレベルを基準とした科目設計や英語スピーキングテスト受験を授業に取込んだカリキュラムを平成28年度に導入した。

## (4) 海外大学とのジョイントディグリー

平成29年4月に京都工芸繊維大学・チェンマイ大学国際連携建築学専攻を開設した。本専攻は京都とタイに残る歴史的建築物を活用し、両国の学生が相互の伝統的技法と新たな技法を学び合うことで、国際的に活躍する建築技術者を育成することを目的としたものであり、文化および建築遺産が多数残る両都市の特性を最大限活かし、実践性をともなう課題解決型の教育・研究を実施するものである。

## (5) 国際化モデル研究室事業の実施

国際化を先導する「国際化モデル研究室」を延べ34研究室指定し、学生の国際学会発表支援、海外大学との国際教育事業、外国人研究者による授業・研究指導を実施した。

## 特筆すべき成果（グッドプラクティス）【1ページ】

**○海外一線級ユニットの誘致（進捗状況の概要Ⅰ(1)に対応）**

英国のデザイン雑誌「Design Week」より「Hot 50：デザイン業界で最も影響のある50名」に選出された英国王立芸術大学シニアリサーチフェローであるジュリア・カセム氏を特任教授として迎えたり、建築分野における世界的権威であるプリツカー賞を受賞した建築家であるジャック・ヘルツォーク氏を招聘し、講演や学生への指導を行うなど、世界的影響力を持つ大学・機関、人物との協働が増え、研究者の派遣依頼や、国際連携教育プログラムの打診が相次ぎ、本学の社会的評価が高まっている。平成28年度には、**招致した研究員がダッチ・デザインアワード2016（オランダにおける世界レベルのデザイン賞）サービス+システム部門賞を受賞**した。

また、平成26～28年度にかけて、ユニット誘致協定22件を含む42件の海外大学等との協定締結を行い、**協定校数が54校から96校へ拡大**した。

**○教員海外派遣による教員組織の国際新陳代謝（進捗状況の概要Ⅰ(2)に対応）**

英語による教育力向上や海外大学等とのネットワーク強化を目的に、若手教員を毎年10名、最長1年にわたり海外へ派遣し、教育に係る実績を積ませた結果、本学の教員26.4%、4人に1人が外国での教育研究歴を持つというグローバル化を推進する環境となった。また、この派遣がきっかけとなり、海外大学と共同で博士後期課程学生の研究指導を行う**ユチューテル・プログラムについてオルレアン大学と協定を締結**する等カリキュラムの国際化が進展した。

**○交流スペースの設置（進捗状況の概要Ⅱ(1)に対応）**

グローバルコモンズでは、様々な国の映画上映、言語パートナーとの仲介、留学生スタッフとの留学前相談等を実施し、年間5,032名が利用した。

**○3×3構造改革、クォーター制によるカリキュラム・学年暦の魅力化（進捗状況の概要Ⅲ(1)に対応）**

学士課程から博士前期課程までの6年一貫教育の実質化を図るため、学士4年、修士2年、博士3年の年次構造を事実上3年毎の進行区分に組換える3×3構造改革を実施した。この改革により、学部4年次生の大学院科目先行履修が可能となった。また、クォーター制を取り入れ、学年暦・学事暦を柔軟化し、学生の多様な学修計画に対応できるギャップタームを生み出し、**留学を促す環境を整備**した。その結果、平成26～28年度にかけて、**学生派遣は119名→289名、学生受入は76名→298名へ飛躍的に増加**した。また、クォーター制科目も31.5%→49.3%に増やすカリキュラム改正をおこなった。本制度に関する学生アンケートでもクォーター制のメリットとして留学やインターンシップへの参加のしやすさが好評であり、グローバル化に大いに有効な方策であった。

**○英語鍛え上げプログラムの実施（進捗状況の概要Ⅲ(3)に対応）**

多読多聴を行う英語鍛え上げプログラムを受講した平成27年度入学者611名について、TOEIC600点以上取得者が入学時の83名(14%)から175名(29%)に倍増した。

また、国際共通語としての英語発信能力を測定するため、CBT(Computer-Based test)英語スピーキングテストを他に先駆けて独自に開発し、平成26年度から計3回の施行テストの末、平成29年度実施の**平成30年度ダビンチ(A0)入試での導入が決定**した。

**○海外大学とのジョイントディグリー（進捗状況の概要Ⅲ(4)に対応）**

**国内初の博士前期課程、国内初の工学分野でのジョイントディグリープログラム**である京都工芸繊維大学・チェンマイ大学国際連携建築学専攻を平成29年4月に開設し、今春、本学側の学生2名が入学した。Mまた、平成29年8月にはタイ側の学生2名が入学予定である。

**○国際化モデル研究室事業の実施（進捗状況の概要Ⅲ(5)に対応）**

英語による論文指導等国際学会での学生の発表支援の結果、分子生物学分野で権威のあるコールドスプリングハーバー研究所国際ミーティングで論文を発表し、その業績により、ハーバード大学研究職に就職した。

また、学生交流プログラムの開発に取り組んだ研究室では、ワシントン大学およびオルレアン大学と毎年10名程度の学生交流プログラムを実施することとなった。